

# KGA

'99夏季号  
1999年8月1日発行



NO.67

## 目次

- 「ジュニアゴルフの頃」湯原信光 .....1  
平成11年度 関東俱楽部対抗決勝競技 .....17  
平成11年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技 .....3  
平成11年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技 .....7  
団体予選 真のスポーツゴルフを目指して .....10  
平成11年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技 .....12  
特別インタビュー 陳清波プロに訊く .....15

- 平成11年度 関東俱楽部対抗決勝競技 .....17  
ゴルフ規則・競技運営と .....26  
JGAハンディキャップ研修会 .....26  
分科委員会 .....27  
月例競技成績表・お知らせ .....28  
表紙Photo 俱楽部対抗決勝・サンヒルズカントリークラブ(撮影・石川博英)

 関東ゴルフ連盟

ジュニアゴルフの頃



## 「ジュニアゴルフの頃」

文・湯原信光 (プロゴルファー)

湯原信光氏は、プロゴルフ界一の紳士である。

その真摯なプレー、きちんとしたマナー、エチケットは、ジュニア時代に培われたものである。

今号は湯原氏に特別寄稿をお願いした。

ジュニア・ゴルファーの質が低下したとか、マナー・エチケットが乱れているという声を聞いて久しい。

翻って、自分のジュニア時代を顧みても、そんなことが話題になった覚えはない。

アテストされたスコアを改竄したとか、関東規模の大会で1ラウンド150ストロークを要する選手がいたとか、すべて信じられない現象ばかりで驚いている。

### マナーは大人になるための社会常識

私がゴルフを始めたのは、昭和39年の小学1生の頃で、世の多くの例に漏れず、父親が熱心なゴルファーだからであった。

家の近所の練習場へ通うか、時には父親のホーム・コースの練習場でボールを打って遊んでいたのが始まりで、ボールと戯れるうちにゴルフに慣れ親しんだように思う。

コースに出てプレーしたのは正しくボールが打てるようになったその後で、小学4年の頃には、ハーフ30台のスコアが出るようになっていた。

その間、ゴルフ・ゲームの肝心な部分、つまりルール・マナーの約束事を覚えたのはゴルフ俱楽部の先輩や父親から教わった。

中学1年で、初めてシングル・ハンディをクラブから貰うとき、支配人と一緒にプレーして、技術だけでなくプレー態度やマナー・エチケットも審査されたことを覚えている。

当時の会員制俱楽部には、必ず研修会などがあ

って、技術とルール・マナーの向上を目指すクラブ・ライフがあった。

- ボールはあるがままに打つ。
  - プレーしている人の先には出ない。
  - 隣ホールに打ち込んだら、挨拶をしてからホールの所へ行く。
  - クラブ・ハウスに入る時は、スパイクの泥を落とし、帽子は脱ぐ。
  - コース内で、プレイヤーやコース・スタッフに会ったら挨拶する。
  - 洗面所を使ったらタオルで拭いておく。
- ……などなどは、先輩プレーヤーのやり方を見て学んだものばかり。

今にして思えば、それらのマナーは子供が大人になるために必要な社会常識の入門講座だった。ゴルフだからという特別な意識ではなく、ごくごく当たり前のこととして覚えて来た。

### 大人も襟を正さなければならない

だから、ゴルフが大衆化した今、マナーの低下が呼ばれるのはジュニアだけの問題ではないと思う。ゴルフ人口の増加に比例してスコア至上主義、マナーの乱れが顕在化した大人社会を反映している現象と思われてならない。

中学・高校の学生ゴルファーが安い費用でプレ



一したり、合宿させてくれるゴルフ場が少ないと理由もあるだろう。

技術やゲームの本質を指導する先生側の人材不足の問題もあるのだろう。

法人会員制倶楽部が増えて、ゴルフの常識を学ぶクラブ・ライフがなくなったことも一因かもしれない。

いずれにしても、ゴルフほど人格形成に役立つスポーツはないのだから、大人の側から襟を正し、ジュニアのためのゴルフ環境整備に腰を据えて取り掛かる必要があると思う。

ルール・マナーを学ぶ場としてのクラブ・ライフがないのなら、小・中・高校生にも分かりやすいマンガで解説した本などを利用してJGA、KGAが指導したらどうだろう？

### ゴルファーはフェアな精神の持主

アメリカのジュニア界を見ても、学校の休みシーズンはトーナメントがたくさん開催されている。自分の技量に見合う試合を選んで出場し、マークを決めたアテスト制度のある正規のラウンド体験を積む。

この体験が貴重なのだ。

審判のいないゲームで、自分が唯一の裁定者というゴルフの特種性を学ぶにはある程度の訓練がいると思う。

ロス郊外の“サイプレス”というコースへ行ったとき、こんなことがあった。

クラブのセクレタリーが「ここはタイガー・ウッズがジュニア時代に育ったコースで、彼は『64』をマークしました」と話してくれた。そこで、「それは公式な競技でしたか？」と聞くと、「いえ、プライベートなラウンドでした」と教えてくれた。

私的なラウンドでも、ジュニアの記録として残されるアメリカ・ゴルフの懐の深さに驚いてしまった。

“ゴルファーであるなら、常識あるフェアな精神の持ち主”

そんな考え方が通用する日本のゴルフ界に早くなって欲しいものだ。

## 平成11年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技

- 開催日 平成11年5月14日(金)
- 開催コース 相模カンツリー倶楽部 6,106ヤード パー72

### こわい“オジサン”的役目

文・宮元照夫 (KGA広報委員)

写真・石川博英 (KGA広報委員)



技を競った一日だった。

最高齢者は85歳の清水武男(水戸)さんだったが、「年に一度のこの競技会に元気で参加することが今は唯一の楽しみ」という。高齢者時代ということも手伝って、年々参加者は増加の傾向にあるというから、若し200名を超えるようなことになれば、予選会も必要ではないか、とKGAでは早やくも嬉しい心配をしている始末である。

### 私はグランドシニア初年兵

その70歳以上を対象とするグランドシニアゴルフ競技選手権が、今年は相模カンツリー倶楽部で行われた。筆者も広報委員会の仕事を兼ねての初出場、ブレーイング・ライターとして競技に参加したのである。

正直なところ自分のプレーと大会の取材を両立させるほど器用ではないが、70歳以上の元気な老人たちのゴルフ・ライフを直接体験しつつ、その実感を書くということでの大会参加でもあった。

エントリーは180名当日欠席が11名、それでも170名にも及ぶ若々しいおじさんたちが永年培った



今年度チャンピオン 矢崎正一さん(東松山)



最高齢者は清水武男さん(水戸)85歳

『生涯好きなゴルフがやれるなんて、こんな幸せなことはないよ』誰彼となく聞いて回ると殆どの人がそう答える。確かに出場者の面々は元気そのもの、飛距離がどうのこうのといながらも実際に若々しくして力強くクラブを振っている。

競技は巧みなコースセッティング、特にグリーンの速やさや流れに惑わされ、思わずスコアの乱れに泣いた人も多かったようだが、季節的に野芝の花が咲く時期とあって、ラフの芯が堅く、ラフからのショットが思うにまかせず苦労した人が多かったようだ。

トップは78ストローク2名によるプレーオフで、今年もその優勝を争うことになったが、初出場の矢嶋正一(東松山)、二年目の小川博道(多摩)両選手によるサドンデス。3ホール目のショートホールで決着がつき、矢嶋選手に勝利の女神は微笑んだ。

息詰まる両者の対戦を観戦しようと多くの人たちがコースを同道する、仲間への応援も去ることながら静寂をとり戻したコースの中を2人だけの激しい闘志がギラギラ伝わってくるが同時に、グラウンドシニアならではのマナーというか仲間への思いやりとでもいうのか、さわやかな友情的一面を見ることが出来た。

## 無残に消えた初年兵の夢

筆者も日本グランド進出を果すべく前日までは

その意気込みだった。何故なら今年の日本グランドシニアの決勝大会は九州宮崎カントリークラブで行われる。私が初めてクラブ・メンバーとなつたコースだけになんとしても故郷に錦を飾るという心づもりでいたからかも知れないが、その夢も空しく無残に散って終った。40年以上もゴルフをやっていて、頭と身体が別々だったような一日だった。

アマチュアゴルファーたる以上、誰しもが自分のホームコースを持ち、シングルプレイヤーになる、そして俱楽部チャンピオンになる、ホール・イン・ワンも経験し、最後はエージ・シュートの大記録を樹てることを夢見る。それがゴルファーとしての終局の目標である。俺だって80歳になつて元気にゴルフができれば、是非その最後のひとつ、つまりエージ・シュートをやって見たい、そんな思いでグラウンドシニア初参加での不調を慰めた一日だった。

とにかく早朝から逢う人ごとに「よろしくお願いします」「君はまだ早いだろう、仕事ではご苦労さん」とテッキリ広報の取材としか思ってくれない。「今年からです。初年兵なのです」「そうか、頑張りました」実に頭の下げ通じで、右を向いても左を見ても先輩だけなのである。ゴルフという社会、いやアマチュアの世界は特別なのである。何が特別かといえば、ハンディや能力や技能ではない、もちろん肩書きも財産もそんなものは一切



念願の10回出場特別表彰を受ける西川為太郎さん(富士御殿場)



パーティは旧制高校同窓会ムード



スコアボード前はいつものにぎわい

ゴルフには関係がない。つまりマナーやルールは優先するが、先輩に対する非礼は許されないということだ。

吾々が若い頃はゴルフ場における礼節を強く教えられたものだ。今は時代も変わり、何をもかも乱れきっている日本のゴルフ界の実情を思うと、余計に神経を使う一日であったような気もする。

表彰式で福田彰連盟理事長が『昭和40年代頃までは、どこのゴルフ場にも、いわゆるこわいおじさんと称される人がいた。特にマナーの悪い若いゴルファーを呼びつけて教育したものだ。それで

こそ真のゴルフ・ライフがお互いに楽しめたものだが、昨今はジュニアの問題然り、とかく乱れがちで社会問題にまで発展している。このようなことでは日本のゴルフ界は世界の三流国に落ちてしまう。どうか今日ご出席の皆さんは、こわいおじさんになって貰い、自分たちのコースの意識改革に一役買っていただきたい』と挨拶されたが、生涯現役もいいが、良い意味でのこわいおじさんになっていたいきたいものだと実感した。是好日のグラウンドシニア競技大会であったことを付記して、体験記としたい。

## 平成11年度 関東グラウンドシニアゴルフ選手権競技成績表

エントリー180名/出場者169名/欠場11名

順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	矢嶋 正一	東松山	38	40	78
2	小川 博道	多摩	39	39	78
3	石井 信光	平塚富士見	36	43	79
4	宮坂 昭治	本厚木	40	40	80
4	篠井重久雄	南城	37	43	80
4	国本 保雄	相模原	42	38	80
4	永川 義雄	土浦	42	38	80
4	木村 良雄	我孫子	40	40	80
4	川添 勇	八王子	38	42	80
10	坂入 弘一	入間	43	38	81
10	臼井 则吉	我孫子	40	41	81
10	杉山次四郎	武藏	39	42	81
10	市川金次郎	美里	40	41	81
10	武田 博	入間	39	42	81
10	山田真早志	蘆之台	41	40	81
16	山口 梅吉	横浜	41	41	82
16	今井 昭一	中津川	43	39	82
16	亀井 利男	本厚木	42	40	82
16	三田 高裕	相模原	42	40	82
16	亀田 秀夫	日高	44	38	82
16	飯沢清五郎	武藏野	39	43	82
16	古川 正男	板橋	40	42	82
16	芝入 俊雄	ヶ崎	41	41	82
24	佐藤 博	龍崎	40	43	83
24	大畠 貞雄	南摩城	44	39	83

順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
24	近藤 久男	相模原	43	40	83
24	片倉 和三	相模原	40	43	83
24	西田幾久彦	霞ヶ関	45	38	83
24	和田 真武	桜ヶ丘	43	40	83
24	杉山 英男	霞ヶ丘	41	42	83
31	飯島 一雄	武蔵野	45	39	84
31	山内 茂樹	大利根	40	44	84
31	小佐野幸治	府中	43	41	84
31	羽川 米慶	唐沢	44	40	84
31	川尻 海治	木橋	43	41	84
31	日下石廣美	嵐風	42	42	84
31	西浦 勝己	伊豆下田	42	42	84
31	渡辺長四郎	飯能	41	43	84
31	宮川 昭二	霞ヶ関	40	44	84
40	安藤 龍男	京葉国際	44	41	85
40	大森 利郎	平塚富士見	44	41	85
40	森田光一郎	高麗川	43	42	85
40	式田 春樹	船橋	44	41	85
40	安富 肇二	武藏丘	42	43	85
40	細川 力	黒磯	44	41	85
40	南山 均	總動	42	43	85
40	洞口 勤	取手国際	41	44	85
40	吉田 光守	崖山	39	46	85
49	木元 肇次	鹿嶋台	43	43	86
49	安田 正行	東京	41	45	86

## 平成11年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技成績表

順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
49	大月 一司	美里	45	41	86
49	木谷 敏	桜ヶ丘	43	43	86
49	島本 郁男	武蔵	42	44	86
49	石橋 義夫	東京	42	44	86
49	吉沢 茂宏	東京みうり	42	44	86
49	菅野 浩安	高根	43	43	86
49	浜村 浩安	宇都宮	44	42	86
58	青柳 俊男	郡須小川	44	43	87
58	横田 勝男	美里	46	41	87
58	林 春善	戸塚	46	41	87
58	溝口 宏造	大相模	45	42	87
58	宮本 忠志	武藏	46	41	87
58	福田 国三	高松シーサイド	44	43	87
58	杉板 智男	桜ヶ丘	44	43	87
58	鈴木 駿	境川	41	46	87
58	牛久 忠彦	狭山	43	44	87
58	菊川 明士	東名厚木	44	43	87
58	深澤 源一	廣済堂埼玉	40	47	87
69	高木 幸季	佐久平	48	40	88
69	鈴木 清次	沼津	45	43	88
69	岡野 幸男	日高	41	47	88
69	浜野 賢	レイインボ	43	45	88
69	笠田 健一	相模	43	45	88
69	曾根順之助	東名厚木	46	42	88
69	夢沼 賢二	唐沢	45	43	88
69	重内 宏敏	立川国際	42	46	88
69	三輪 錠次郎	霞ヶ丘	41	47	88
69	中井 文治	東京京	43	45	88
69	松井 一彦	立川国際	44	44	88
69	成宮 秋良	横浜	43	45	88
81	星野 福太	嵐山	48	41	89
81	吉村 金男	セントラル	48	41	89
81	岸 一	千葉	42	47	89
81	菅沼 重男	木本	44	45	89
81	平 重雄	相模原	45	44	89
81	本吉 敏男	東京	42	47	89
87	長野 和郎	諒食	48	42	90
87	中根 秀明	嵐山	46	44	90
87	大隈 健造	武蔵	48	42	90
87	水戸 雄輝	平塚富士見	45	45	90
87	中村 實	大相模	45	45	90
87	玉木 道吉	桜ヶ丘	46	44	90
87	大矢 得光	津久井湖	44	46	90
87	細井 秀次郎	鷹の台	47	43	90
87	樋口 俊二	藤ヶ谷	43	47	90
96	市来 鉄則	千葉国際	48	43	91
96	宮元 照夫	鬼塚	46	45	91
96	福留 富男	立川国際	45	46	91
96	櫻村 三夫	千葉国際	48	43	91
96	山本嘉兵衛	東京京	48	43	91
96	亮井 照夫	中山	48	43	91
96	高田 吉夫	東京国際	47	44	91
96	北田 潤	取手国際	46	45	91
96	井上 刚彦	相模原	47	44	91
96	土屋 健基	穗高	42	49	91
96	小山 立雄	東名	47	44	91
96	田辺 勝彦	相模原	43	48	91
108	藤形 祐一	長野	48	44	92
108	菊川 欣宥	船橋	50	42	92
108	中村新一郎	東京国際	48	44	92
108	甲越 文敏	総武	48	44	92
108	武田 富雄	船橋	46	46	92
108	眞貝 一郎	東名厚木	46	46	92
108	八幡 行彦	美ヶ谷	45	47	92
108	川口 修	鎌ヶ谷	47	45	92

特別表彰（関東シニア（決勝）・関東ミッドシニア・関東グランドシニア出場）

（10回出場表彰）鶴下 光治（嵐山）岸 一（千葉）木村 良雄（我孫子）／島本 郁男（武蔵）  
鈴木 駿三（境川）／谷間 芳明（真名）／玉木 源吉（桜ヶ丘）／西川為太郎（富士御殿場）  
本多 実（嵐山）／宮坂 昭治（木厚木）／吉本 敏男（東京）／貞伸 仲（ゴルデンレイクス）

## 平成11年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成11年5月17日(月)、18日(火)

●開催コース 平川カントリークラブ 6,290ヤード パー73

### 新緑の下の熱き闘い

文・吉川英明 (KGA広報委員)  
写真・舟橋一芳 (KGA広報委員)

平川カントリークラブには楠が多い。折しも新緑、したたるほどの緑が目を洗う。

5月11日、決勝ラウンド、朝からやや風が強かった。

首位は二人。初日3アンダーの70という好スコアで上がった昨年チャンピオン中島真弓選手とベテランの渡辺恵子選手である。

二年連続三度目の優勝を狙う中島選手は、過去に日本女子アマ、日本女子学生にも勝っている若手の第一人者。

一方、渡辺選手は、この大会20回目の出場で優勝2回。他にも日本女子アマに1回、日本女子ミッドアマ2回優勝という、ベテラン中のベテランである。

その上、去年のこの大会でも、この二人が最終日同じ組で競り合い、中島選手が渡辺選手を振り切って優勝した経緯は記憶に新しい。

勢い、興味はこの二人の優勝争いに絞られた。出だし、中島選手が飛び出した。1番2番、いきなり連続バーディーを奪って、立ち上がりにつまずいた渡辺選手に4ストロークの差をつけてしまっ



二連覇を果した中島真弓さん

たのだ。

だが、ここでするすると崩れなかった渡辺選手もさすがである。じっと我慢のバーを積み重ね、その後4ボギーと乱れた中島選手に再び1ストローク差に迫ってアウトをターンした。

しかし、中島選手は強かった。インに入ってからは取りこぼしなく、10番から18番までスコアカードに印刷どおりの数字を並べてパープレイ。

一方の渡辺選手も、12、15番をボギーとして3ストローク離されたが、17番のショートホールでの日初めてのバーディーを取って最終18番に望みをつないだ。

18番は両者ともバーで、結局2ストローク差は縮まらなかったが、大詰め間近のバーディーで最終ホールまで緊迫感を持ち込むあたりにベテランの意地が窺え、見ごたえのある試合となった。

二日間、ドライバーの落しどころに一番神経を使ったという中島選手も、

「18番のティーショットでフェアウエイをキープしたとき、初めて“これで勝てるかな”と思いま



熱戦を終えてスコア記入する中島さん(右)と渡辺さん(左)

した

と、勝利までの軌跡を振り返った。

中島選手は、来春大学を卒業するが、その後はプロ挑戦も考えているという。健闘を期待しよう。

### チャリティが好スコアにつながる?

話は変わるが、KGAでは近年、国連難民救援基金へのチャリティーに力を入れている。

競技でホールインワンした人に、何がしかの寄付をお願いするなど募金に知恵を絞っているのだが、関東女子の出場選手の中に、毎年10万円近い募金を寄せてくれる選手がいるという話を聞いてみた。

この人は、長野カントリークラブから出場している嶋田万里子さん。

嶋田さんは、数年前にこの大会でチャリティーのこと知り、出来る限りの協力をして、長野県の女性ゴルファーに呼びかけた。

そして、シーズンの始まる4月の初めに女性だけのコンペを開いて、3,000円の参加費の半分ほどをチャリティーに振り分け、KGAに寄託するという試みをはじめた。

嶋田さんの呼びかけは、回を重ねるごとに輪を広げ、初め30人ほどだった参加者も60人、80人と増え続けて、このところ毎年10万円前後の寄付が出来るようにになった。6年目に当たる今年の参加者は80人だったが、賛同者の名



表彰式、パーティは全員着席、欠席者も皆無にちかい

簿は既に160人を超えるといふ。

「連盟から表彰状もいただいた、それも励みになっています。趣旨を説明すると、皆さん、気持ちよく賛同してくれて、4月初めのチャリティー・コンペが長野では恒例の行事になってきました。今後、10年でも20年でも続けられる限りやりたいですね」

嶋田さんはそう言って顔を輝かせる。ゴルフも好調で、今大会のスコアは156ストローク、堂々8位に食い込んでいる。

女子のトップアマとしての自覚と責任感の中から、チャリティーという発想も生まれたのだろうが、経済的には恵まれた環境に置かれた日本のアマチュアゴルフ界に、こうした運動がもっともっと広がることを願うのは筆者だけではないだろう。

15歳から64歳までという広い年齢層135人が出場した関東女子アマ選手権、ほとんど遅れもなく、ほぼ予定の時刻に最終組がホールアウトした。

毎年この時期に思うことなのだが、この大会のプレーに比べて、男子の俱楽部対抗のプレーの遅さは何だろう。

言うまでもなく、俱楽部対抗に出てくる選手はそれぞれの俱楽部のトッププレイヤーたちである。俱楽部のメンバーにはスローブレーを諒めておきながら、自分達の試合では、ワンラウンド6時間という異常な時間をかけている。許されることではないと思う。一昔前までは、俱楽部対抗の予選は一日2ラウンドだった。いつからこんなにプレーが遅くなつたのだろう。プレーの遅延に限れば、男子アマは以って女子アマを範とすべきである。

### 平成11年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

エントリー135名/出場者135名/欠場者0名

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	合計
1	中島 真弓	八ヶ岳高原	70	75	145
2	渡辺 恵子	高 樹	70	77	147
3	中島 佳乃	スカイウェイ	76	75	151
4	下村 真由美	関東ジュニア	76	77	153
5	岡橋 早里	オーク・ヒルズ	77	78	155
5	齊藤 美香子	東北福祉大	78	77	155
5	塩田 美樹子	十里木	76	79	155
8	鶴島 茜	関東ジュニア	77	79	156
8	嶋田万里子	長 野	80	76	156
8	西川みさと	専 備	78	78	156
11	井上 瑞胡	関東ジュニア	82	75	157
11	日下部智子	ジェイ・セレモ	84	73	157
11	川端 寸志	藤 岡	78	79	157
11	川本 裕子	小田原・松田	80	77	157
11	山本 真美	新 千葉	75	82	157
16	加藤 勝榮	相 模	80	78	158
16	小坂 順子	千 葉	81	77	158
16	田辺千佳子	日本 大	79	79	158
16	戸部賀代子	君 津	81	77	158
16	鈴木 章吉	東京スプリングス	79	79	158
16	太田千加子	小田原・松田	78	80	158
22	菊地恵美子	宇 都 宮	79	80	159
22	長嶋 光子	水 戸	80	79	159
22	石津 朋子	韋 月・鹿 股	82	77	159
25	高橋友希子	関 東 ジュニア	78	82	160
25	杉浦ちえみ	寄 屋	82	78	160
25	桜井 裕恵	石地シーサイド	82	78	160
25	小林 英恵	玉 造	79	81	160
29	三木恵美子	富 士	81	80	161
29	大畠さつき	日本 大	79	82	161
29	大木 美佳	児玉スプリングス	76	85	161
29	板橋 博美	桐 生	80	81	161
29	福田 淳子	セントヒルズ	78	83	161
29	森田 和恵	韋 月・鹿 股	80	81	161
35	市川 慶子	江 戸 岡	83	79	162
35	南雲 真理	四 部 チ サン	83	79	162
35	鈴木志乃美	下 野	80	82	162
35	佐野 順子	武 戸	82	80	162
39	牛込 成美	下 野	84	79	163
39	近藤 信子	富 士 箱根	82	81	163
39	萩原喜美江	太 田 双葉	81	82	163
42	増田 京子	筑 波	81	83	164
42	五十嵐洋子	藤 岡	81	83	164
42	落合 真紀	小田原・松田	82	82	164
42	栗原美佐伎	扶 桑	81	83	164
42	大木 美幸	鹿 沼	83	81	164
42	湯原 光菜	鳥 山 城	81	83	164
48	猪股美恵子	上 級 富士	83	82	165
48	上野 千鶴	ゴルデンレイクス	83	83	165
48	高橋香雅美	小田原・松田	85	80	165
48	横 孫	船 橋	80	85	165
48	孫 真美	千葉 廣 潤 池	80	85	165
48	伊藤 結花	ザ レイクス	80	85	165
48	河内 香織	事 務 大	82	83	165
55	青木 英子	千 葉	84	82	166
55	曾原里矢子	京 京	82	84	166
55	畠井千代子	鬼 惇 川	86	80	166
55	中島佳奈子	関 東 ジュニア	81	85	166
58	西田美千子	東 千葉	86	81	167
59	東尾タマエ	ザ レイクス	84	83	167
59	山崎 久美	習 志 野	84	83	167
59	林 恵子	小 野 門	84	83	167
59	小島美智子	新 千葉	85	82	167
59	谷中富美子	ザ レイクス	81	86	167
65	富田南海子	ロイヤルオータ	83	85	168
65	田村 開子	上越国際・十日町	86	82	168
65	鶴島 啓子	八 王 子	85	83	168
65	島崎 吉枝	業 山 国 原	85	84	169

#### 予選メダリスト

第1ブロック 田辺千佳子(日本 大) 77ストローク  
桜井 裕恵(石地シーサイド) \*第2ブロック 太田千加子(小田原・松田) 76ストローク

特別表彰  
(10回出場表彰) 五十嵐洋子(藤 岡)/加藤 理刈(伊豆大仁)  
島崎 利江(鎌ヶ谷)/長嶋 光子(水 戸)  
(15回出場表彰) 市川 慶子(江 戸崎)/菊地恵美子(宇都宮)  
(20回出場表彰) 渡辺 恵子(高 根)

## 眞のスポーツゴルフを目指して

—くまもと未来国体東京予選—

レポート・塙田 正 (KGA広報委員)

第52回都民体育大会第2部、第54回国民体育大会ゴルフ競技東京都代表選考会兼第1回東京都アマチュアゴルフ選手権競技（ミズノ杯争奪）は、去る7月1日、2日、東京都あきる野市の立川国際カントリークラブ（奥多摩コース）で行なわれた。くまもと未来国民体育大会へ出場する代表選手選考、都アマチュア選手権など、初ものぞくめの大会で、各方面から注目されたが、男女各4名の東京都代表が決まり、初代東京アマ・チャンピオンとして、和田博選手（研修委員会）が栄冠を勝ち取り、盛会裡にその幕を閉じた。

### 目立つ決勝ラウンドの欠席者

「初めての大会だけに運営やルール面で心配もあったが、さすがは東京を代表するトップ・アマが多数を占めていただけにその心配も杞憂に終わってほっとしています」

こういうのは野口正三大会副会長（KGA競技委員会副委員長）である。たしかに国体の選手選考も初めてなら、東京都アマチュア選手権も初めての大会だけに関係者の心配も並大抵ではなく、とくに競技面でどれだけスムーズに展開できるかが心配のタネだった。

「でも、選手たちのプレーの態度も立派だったし、東京都のアマチュアの核になってもらえると確信しました。これからは東京都ゴルフ連盟の活動もいっそう盛んになると思われますが、この大会に出場した選手たちが中心になってその活動を盛り上げていってくれるものと思っています」

と前記野口副会長は競技での選手のプレー態度について、このように感想をもらした。

この野口副会長はその言葉を裏付けるものとして、つぎのような例を挙げる。

「例えば、ある場面で処置に困った選手が、規則3-3を援用して、第二のボールを打ってきて、規則に適合していたらどのボールでのスコアを採用したいかをきちんと競技委員会まで申し出たことです。一つの例にすぎませんが、これなどこの大会に出場している選手の質がいかに高いかを証明しているといつていいのではないか」と期待されている。

当然のことといつてしまえばそれまでだが、一般ゴルファーのルールの乱れが取沙汰されている昨今のゴルフ事情からすれば、こうしたトップ・アマの選んだ正しい処置が、これから若いゴルファーに大きな影響を与えることはたしかであろう。

ただ、この大会についてまったく問題がなかったわけではない。それは新井安寿大会競技委員長が、講評でも指摘した決勝ラウンドでの欠席者が多かった点である。第一日目の予選ラウンドを終わって決勝に進出した人は男子69名、女子32名だったが、当日、実際にプレーした選手は、男子54名、女子29名、計83名だった。女子3名はともかく、男子の欠席者15名というのはいかにも多い。

一応、全選手から欠席届は出されているが、この15名という多さに新井委員長も首をかしげる。

「何が理由かちょっとわかりませんね。いろいろな大会の競技委員長を務めてまいりましたが、15名も不参加というのは初めてです。これからはこうした欠席者を減らすこと、そして基本的なマナーの徹底など、もっと意を尽くしていく必要があると思います。そのためには2会場くらいで地区予選を行ない、その場で多くの人に競技ゴルフを体験してもらい、同時にルールやマナーの向上を図りたいと思っています」

今後は地区団体が増えるのは目に見えているし、国体予選にももっとゴルファーの関心が集まるの

も予想される。そんなことを考えると今度のような第1日目予選、2日目決勝というスケジュールではさばききれなくなってしまう。当然、新井委員長のいう予選→決勝というプランが浮かび上がってくるのだが、一方、こうした公式競技を通じて、参加者の強い責任感、基本的なマナーなども身についてくるのではないかと期待されている。

### アルコール抜きの一日

こんどの大会でもう一つ目についたのは、昼食はもちろん、パーティでも完全なアルコール抜きな点であった。最近でこそ、昼食でビールなどをガブ飲みする雰囲気は薄れてきたものの、表彰式等ではビールでの乾杯はもちろん、一杯機嫌でプレーの話に花を咲かせているのがふつうである。

ところが今回は昼のテーブルを見ても、あるいは表彰式の席上にもアルコール類はまったく見当たらない。

初ものぞくめのこの大会の一つの特徴ではあったが、この点について田原和夫大会会長（東京都ゴルフ連盟理事長）は、

「当然です。ゴルフというと、これまで昼食にビールを飲んだり、プレー中にタバコを吸ったりして、およそスポーツの競技らしからぬところが見

られました。しかし、この大会は純然たる国民の競技大会に選手を送り出す競技会です。眞のスポーツマンの集いとして位置づけていますアルコール類は自粛してもらっています」

と昼食や表彰式にアルコール類の出ない理由をこう説明している。たしかに他の種目の選手たちの中にまじって、ゴルフの選手だけが昼食時や表彰式等でアルコールで顔を赤く染めていたのでは、いかにもみっともない。

この暗黙のルールは、国体につながる競技会では徹底されるはずで、そうなるとこれからの若い選手たちの競技ゴルフが変わってくることも考えられる。つまり、選手は華美に流れる事なく、スポーツ精神にのっとって技を競い合うという眞のスポーツマンというスタンスがしっかりと地に着いてくるのではないかというのがそれである。酒を飲まないゴルフ大会——小さなエピソードのように聞こえるが、実はこの小さな一步は、スポーツとしてのゴルフへの大きな一步になるかもしれない響きをもっている。そして初ものぞくめのこの大会にふさわしい出来事がもう一つあった。それは平山尚記選手（都研修委員会）のホール・イン・ワン（第一日目・2番ホール）で、この快挙はまた新世代ゴルフへの祝砲のように思えてならない。

### くまもと未来国体 東京都代表選考結果

第52回 都民体育大会 第2部 | 第54回 くまもと未来国体 東京都代表選考

#### 第1回 東京都アマチュアゴルフ選手権競技（ミズノ杯争奪）

主 催 東京都 / (財) 東京都体育協会 主 管 東京都ゴルフ連盟

東京都 / (財) 東京都体育協会 主 管 東京都ゴルフ連盟



男子 優勝	和田 博	68	73	141
2	中田 篤彦	73	69	142
3	原田 光則	71	72	143
4	沢田 信弘	71	72	143



女子 優勝	井上 景湖	72	77	149
2	矢島智都子	79	80	159
3	南雲 真理	74	86	160
4	菅原亜矢子	78	82	160

## 平成11年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成11年6月7日(月)・8日(火) 予選ラウンド  
6月9日(水)・10日(木) 決勝ラウンド  
●開催コース 戸塚カントリークラブ(西コース) 7,067ヤード パー72



## プレーオフ“準備する人、しない人”

文・杉山通敬(KGA広報委員) 写真・石川博英(KGA広報委員)

「プレーオフになった場合、キャディさんはどうしましょうか」

事務局の大森娘が新井安寿競技委員長と田村圭司副委員長に相談をもちかけて来たのは10時近くのことだった。3日目を終って首位は215(1アンダー)の和田雅英、中田範彦両選手だったが、少なくとも220の8位までには優勝の可能性があり、したがって何人かの選手によってプレーオフにもつれ込むことは十分に考えられた。

3人組にキャディは1人。つまり3バックである。同じ組同士のプレーオフならその組についたキャディでよいが、別の組の選手となると不公平になるのではないか。18ホールを伴にした選手とキャディには、連帯感が育まれているだろうし、そのプレーヤー特有のクセなり、プレーのリズムといったものもキャディが弁えているであろうことは十分に推察される。



昨年の雪辱を果した  
中田範彦選手



「なろうことなら、わたしがついた選手に勝ってもらいたい」

という情もわくであろう。別の組の選手にとつて、それでは公平を欠く。というわけで、何になろうがプレーオフになったら、すべて新しいキャディに替え、1バックにすることに相談はまとまった。競技運営の裏方さんは細かいところまでいつも気を配られなければならないのだから、ご苦労なことである。

「それではインもよろしくお願ひします」

最終組の3人(和田、中田両選手に中島雅生選手)が声を掛け合って、10番ティに登場したのは11時40分前後であったが、中田選手が1、2、8番でバーディを取り、和田選手も4番を取り、216でスタートした中島選手は6番と8番でボギーをたたいているので、その時点ではぼ、優勝争いは和田、中田選手に絞られたかにみえた。

残りの9ホールとなり、中田選手が4アンダーでトップ、和田選手が2アンダーで2位、ひと組前の中島常実選手が1アンダーの3位だった。そして迎えた12番(333ヤード、パー4)、中田選手がグリーン外からのアプローチパットを直接入れ、さらに13番(523ヤード、パー5)では第3打を1.5メートルに寄せて、連続バーディを奪う。残り5ホールで6アンダー、2位との差は4打。裏方さんの配慮を水面下に沈め、独走態勢に入った。中田選手自身も競技終了後に言った。

「13番を終った時に優勝を意識しました」



20年決勝連続出場の偉業を成し遂げた中野弘治選手 特別表彰を受け“家族、友人、知人、関係者のおかげ”と心から感謝の辞を述べた



トップアマの責任と義務を説くKGA福井彰理事(左)と、開催倶楽部を代表して日本アマでの関東代表への健闘を祈念する吉岡文平戸塚カントリー理事長(右)



「ここから、そこぐらいでしたよ」

そう言って、自分の靴先を観戦子の靴へ寄せてみせる。

「80センチくらいだね」

「いえ、70センチあるかなしかでした」

下りのフックラインだった。それをショロと外す。体の向きをかえ、スタンスをとり直し、短いストロークをする。それがまた、ショロと外れる。70センチから3パットのダブルボギー。和田選手との間にあった4打差が2ホールで1打差に詰ったばかりか、先行組の中島常実選手がこの15番をパーで通過したので、彼との差も1打になる。

残り3ホールとなって、独走態勢は崩れ、俄かにプレーオフの可能性が高まってくる。水面下の配慮がここへ来て「スタンバイ、OK」といった成り行きになったのだ。裏方さんの先見の明に脱帽するばかりである。そして417ヤードの17番(16番はともにパー)、今度は和田選手にピンチが訪れる。風はフォア。セカンドショットをする時に、その風に乗ってどこからともなく、ガサガサという熊手で何かを搔き集めているような音が波状的に伝わって来たせいか、タイミングを崩し打ち損なったのだ。50ヤード近くもショートさせる。第3打で乗せはしたが、ピンの右奥8メートルもある。

「あの8メートルが入った時には、心臓が止りそうでした」

中田選手の試合後の述懐である。和田選手は「よし！」、自らを励ますように言う。ピンチは去り、残り1ホールのチャンスに望みを託したのだ。

中島常実選手が通算2アンダー（最終ラウンド69）でひと足先にホールアウトしたあと3アンダーの中田選手が401ヤードの最終グリーンに2オンを果たす。ピン左横、約4メートル。ティショットはアイアンで打っていた。ついで和田選手は右横2.5メートルほどに乗せる。彼はドライバーでティショットした。

「追う者にとってすべてのパットはホールブルである。遅走者にとってすべてのパットはミッサブルである」

と言ったのはハリー・バードンだけれど、今回も追う者も遅走者もともに2パットでホールアウト

する。

グリーンサイドでその場面を観戦しておられた、開催コース戸塚CCの吉岡文平理事長が観戦子に確めるように言った。

「プレーOFFではないのですね」

プロ競技のようにスコアボードがないので当方としては、もう一度メモを確認したうえ「ハイ、1打差で中田選手が勝ちました」

中田範彦選手（身長178センチ、体重73キロ）は日体大の4年生で、ゴルフ部のキャプテンである。本人だけはプレーOFFの心づもりなどサララしているなかったにちがいない。

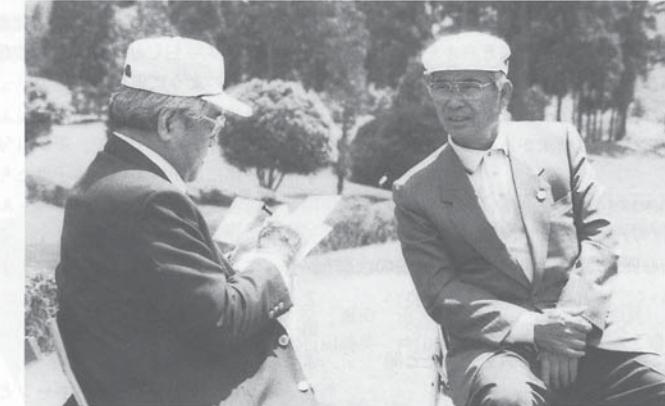
## 平成11年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技

エントリー数157名／出場者数155名／欠場者2名

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	第3ラウンド	第4ラウンド	合計
1	中田 範彦	トヨコ一	72	71	72	70	285
2	中島 常実	東松苑	71	75	71	69	286
2	和田 雅英	東京五日市	69	72	74	71	286
4	和田 博	東京五日市	75	72	72	72	291
5	五十嵐将司	日本大	68	76	73	76	293
6	佐野 史郎	富士チサン	70	74	75	75	294
6	中島 雅生	セイバックス	72	74	70	78	294
8	村上 史晃	関東ジュニア	74	74	74	73	295
9	江原 清浩	ユナイ	79	72	73	72	296
10	金子 光規	レイボーン	75	76	71	75	297
11	石井 保行	清川	77	76	70	75	298
11	中島 萬志	東松苑	73	72	75	78	298
13	竹石 要佑	筑波	75	76	74	74	299
13	加部 謙	東名	76	73	74	76	299
15	市原 弘大	関東ジュニア	72	77	82	69	300
15	桜井 秀剛	ニッソーリ	77	75	73	75	300
17	三宮 勇雄	柏崎	76	76	75	74	301
17	鴻田 審人	青梅	77	75	71	78	301
17	徳永 雅洋	ザ・レイクス	72	75	75	79	301
17	坂田 哲男	袖ヶ浦	74	73	77	77	301
17	市川 賢	東京国際	76	75	72	78	301
22	杉山 徳	経	74	75	76	77	302
23	中野 正義	霞ヶ浦出島	76	74	82	71	303
23	白井 敏紀	絶	77	75	75	76	303
23	室伏 健二	東名	76	73	75	79	303
23	杉田 明	GMG八王子	77	75	73	78	303
23	沢田 信弘	東京五日市	74	78	77	74	303
23	岩本 通	扶桑	76	75	80	72	303
29	桜井 伸秋	新千葉	76	73	78	77	304
29	飯塚 肇	碧回	75	77	77	75	304
29	上島 英信	ニッソーリ	75	75	80	74	304
29	中川 利一	大利根	75	79	77	73	304
29	日暮 俊明	扶桑	76	74	75	79	304
29	神戸 誠	太田双葉	71	79	78	76	304
35	金 浩延	塩原	77	74	74	80	305

### ■予選競技メダリスト選手

第1ブロック（赤羽）	石井 直人（泰野）	68ストローク
第2ブロック（赤城）	斎藤 新治（伊香保国際）	71ストローク
第3ブロック（東ノ宮）	江原 清浩（ユニアイ）	71ストローク
第4ブロック（茨城ロイヤル）	寺村 龍義（スプリングフィールズ）	71ストローク
第5ブロック（大妻）	桜井 延秋（新千葉）	71ストローク
第6ブロック（豊科）	吉岡 伸道（パブリック協会）	71ストローク



## 陳清波プロ に訊く

インタビュー 宮元照夫（KGA広報委員）

ゴルフの名将ともいわれる陳清波プロが、俱楽部対抗決勝会場に姿を見せていました。そこでインタビューをこころみたが、開口いちばん「素晴らしい大会」と絶賛した。「こんな立派なアマチュアの競技会があることは、日本のゴルフ界の未来が明るく見えますね」プロ・アマを問わず健全なゴルファーの指導育成に尽くしてきた陳プロの言だけに、関係者の末席に名を連ねている私だが、正直のところ大変に嬉しかった。

陳さんと決勝会場サンヒルズCCのオーナーの林副理事長とは旧知の仲、サンヒルズの前身は「華巣カントリー」であったが再オープンするにあた

り個人的にアドバイス役を買ってでたとのこと。36ホール、設計はロバート・タレン特・ジョーンズII世によるものだが、何かと相談に乗ってあげてることで、今回も大きなトーナメントを開催すると聞いて楽しみにやって来たという。早速インタビューに応じて貰った。

——日本にこられて何になりますか。  
川奈にお世話をなったのが昭和29年、私が23歳の時でした。当時全国でゴルフ場は80ぐらいでした。こんなにゴルフが盛んになるとは考えてもみませんでしたね。プロも80名前後、昭和34年のカナダ

カップを機に急激にゴルフの人気が高まり、ゴルフ場もゴルフ人口も増大したと思います。

——俱楽部対抗競技をごらんになって、どんな感想をお持ちですか

実際に素晴らしい競技会だと思いました。オープントーナメントや冠のついたトーナメントも数多くあるわけですが、それとは全く異なるこの競技を見て日本のゴルフ界には将来があることを強く感じましたね。

年一回のこの大会のために、俱楽部毎にチームワークがつくりあげられ、クラブ・ライフに役立つでしょうから、同時にゴルファー自身の技術の研鑽につながっていく。それはゴルフ界全体が良い方向に進むということではないでしょうか。

——コース改造に多くのアドバイスをされたと聞きましたが、そのポイントは?

当初は華厳カントリーとして発足したゴルフ場ですが、私はコースはアマチュアが嫌がるレイアウトは駄目だと思っています。インターバルを短く、ロストボールにならないホール造りが基本でしょうね。このコースの改造にあたっては、現在のクラブハウスの位置を29メートルも下げるという大改造でした。

スタートホールはやや打ち降しですが、殆んどフラットな状態になっており、悠々とラウンドが出来るので楽しくプレーができると思いますよ。

——陳さんは近代ゴルフの名将といわれ、特にアマチュアの指導には力を入れていますが。

私の基本概念にメジャータイトルのとれるようなゴルファーを育てるというものを意識して教えてきました。もちろんプロもアマも同じです。プロは金を稼ぐ、アマは国際親善に役立つ、つまり全米、全英なりでアマも活躍することは可能です。日本にはそれだけの環境が整っているわけですから本人の努力次第、練習次第でやれないことはないと思っています。

技術的には基本がより大切だと思います。この俱楽部対抗に参加している選手の人たちのショットをたくさん見ましたが、プロに教わった人のショットは基本がしっかりしているので練習次第でどんどん伸びるでしょうね。

——ナイス・ショットは華麗なスイングから生れる。と昔、陳さんが書いた本を読んだことがあります。ところでジュニア教育については、どんな考え方を持っておられますか。

日本はゴルフ場をもっと解放すべきだと思っています。欧米のように俱楽部単位でジュニアを育てるという意識を持つことが先決でしょう。特定の子供たちだけのものではなく、親が自分のコースに子供と一緒に出かけていく、子供たちのための時間と場所を提供する。マナーやルールは自然に教えそして覚えていくものなのです。そうした習慣が育つければ日本のゴルフ界の未来はもっと大きく開かれていくでしょう。

第一に税金がかかり過ぎることが私には理解できませんね。

——おっしゃる通りです。スポーツと名のつくもので税金がかかるのはゴルフだけですからね。先進国でゴルフに税金をかける国は日本だけではないでしょうか。利用税だやれ消費税などと。会員が自分の金でメンバークラブとして自分たちのコースで健康のためにゴルフをする、それに税金がかかること自体理解に苦しみますね。

株式会社なら事業税とかその所得に対して所得税というのをわかりますが。

——最後にコース戦略の上で、何かひとつアドバイスを残して下さい。

そうですね、いろいろ考えれば山ほどありますが、例えばティインググランドに立って第一打でどこを狙うか、そのためにどこにティーアップすればよいか? ということを考える気持ちの余裕を持つことをおすすめしたいですね。

案外そこまで気をつかうプレイヤーはいないもので、特にレベルの高いアマチュアの人は第一打を大切にすることです。見極める時間はタップリあるわけですから。

コースのセッティングはホール毎に特徴を生かして造られている。レベルの高い人ほどその見極めが要で、結果が良ければその日の調子にもつながる。つまり楽しいゴルフが出来るということではないでしょうか。

——ありがとうございました。

## 平成11年度 関東俱楽部対抗決勝競技

●開催日 平成11年6月21日(月)

●開催コース サンヒルズカントリークラブ Aクラス 6,578ヤード パー72  
Bクラス 6,925ヤード パー72



### 「大優勝楯」初めて群馬県へ

—新勢力の台頭と不況下の俱楽部事情—

文・塩田 正・山田和臣 (KGA広報委員)

写真・石川博英・片山晴美・舟橋一芳 (KGA広報委員)

#### ● 優勝はチームワークというバックボーン

優勝を決定し、掲示板に見る人ごみの中から、「おや、新千葉や藤岡はどうしたの?」というさやきが聞こえた。俱楽部対抗決勝では、いつも上位を賑している常連俱楽部の名前がないからである。今回は優勝の下馬評が高かった新千葉カントリー倶楽部は15位、嵐山カントリークラブが22位、扶桑カントリー倶楽部が31位と軒並み10位以下に後退し、わずかに有望チームといわれている中で10位以内に残ったのは、藤岡ゴルフ倶楽部の8位が最高の成績だった。



53回目に初めて群馬県の倶楽部(伊香保国際カントリークラブ)が優勝 福田理事長より山添満キャプテンへ大優勝楯を授与



福田理事長(右端)と新井競技委員会(左端)を交えて記念撮影



決勝初出場を果した南長野ゴルフ倶楽部（左）とロイヤル・カントリークラブの皆さん（右）

こうした強豪チームの実力を知っているだけにギャラリーの多くが首をかしげてしまったのだが、ではなぜ期待に反して上位を狙ったチームが崩れ去り、新勢力がのし上がってきたのか。

この問い合わせに対してこの大会の新井安寿競委長は「これだけはわかりませんね」と前置きしながら、つぎのように推理する。

「ざっと見ておいたところ、コースの状態がどうこうということはありませんね。管理の状態は非常によかったです、とくに山坂が厳しいということはありません。だから上位の倶楽部がこのコースに合っていたからという推論は成り立ちません。むしろ優勝チームを始め、上位チームは6人の力が存分に發揮されたからと見るべきではないでしょうか。地力という点では、さすがに各県を代表するチームだけに出場チームの間にそれほど差はなかったと思います。ただ、今回の上位チームは、当日、6人の力が十分に出し切れたということではないかと思います」

と、6人のプレーにミスが少なく、実力通りのスコアをマークすることができたチームが上位を占めたという見解をとっている。

しかし、とはいっても倶楽部対抗という特別の雰囲気からみて、ただその日の調子だけで6人ともうまくプレーできたとは考えにくい。

この点について、伊香保国際チームのキャプテン、山添満氏は、

「私のところは月3回研修会を開いているんです。通常の研修会、それに月例杯、寄贈杯にも研修会

員として参加し、それにクラブ選手権、スクランチ競技を加えて年に38回くらい研修会をやっているんです。その中からベスト10ラウンドの平均を出し、上位から6名選びます。そしてこの人たちが代表選手となるんです」

と、まずふつうの月例競技や寄贈杯まで研修会に組み入れ、万遍なく選手の実力養成に力を注いできたというのである。そして10ラウンドの平均を見ると、6位と7位の差は0.1~0.2くらいの差しかないという。つまり選手の座を獲得するためには、熾烈な戦いを勝ち抜いてこなければならぬわけである。

「選手になるためにこの厳しい条件をクリアしたその一人一人の実績とチームワークが優勝へつながったと思います」

と山添キャプテンはこう戦いを振り返る。

また、ほぼ20年ぶりに3位の座を射止めたという富士宮ゴルフクラブの藤田久好キャプテンは、

「うちは粒揃いとはいわれていましたが、中に腰を痛めていた選手がいたんです。気の毒だったんですが、この人に無理して出てもらいました。ちょっと悲壮感がただよっていたんですが、そんな中で、この人が頑張ってくれて、みんなの気持ちも『頑張ろう』と一つになったのがよかったと思っています」

と、チーム・ワークが上位進出のポイントだと指摘する。「関東大会に出てくるようなチームには実力的に大差ない」とは新井競技委員長の言葉だが、たしかに、一人の落伍者も許されない倶楽部



応援団席は大にぎわい 今年はホテル階下の大駐車場に設営



対抗では、一人一人がしっかりした目的意識をもち、選手はもちろんクラブ挙げてのチーム・ワークが必要なのは当然のことである。今回の上位入賞チームには、とくにその傾向が強く、一人一人の力が遺憾なく発揮されたのも、チーム・ワークという太いバックボーンがあったからこそといえるのではないだろうか。

## 不景気の波で目立つ自粛ムード

それとことしの関東倶楽部対抗で目立ったことは、不景気風が吹き荒れる折から、自粛ムードが漂っていたことである。バブル崩壊以前は選手はもちろん、関係者のぶんまで、真新しいレザーコートとズボンをずらっと揃えて会場入りしたチームが目立ったが、ことしはそんなチームは皆無といってよかったです。

「そんな話は昔のことですよ。去年あたりからシャツ1枚、帽子1枚だけです。しかしそれでもみんな不平もいわずもくもくと練習に励み、きょうのこの舞台を踏むことができたんです」

こう語るのは埼玉県のある倶楽部のチーム・キャプテンである。たしかにことしの大会では、どこの関係者に聞いてみても「自粛」という声がはね返ってくる。

例えば栃木県のある代表倶楽部のチーム・キャプテンはこんな話ををする。

「栃木県といえばビジター・フィーの値下げ競争では関東一と聞いています。それほど不景気風が

吹いているのですから、われわれも倶楽部にいってズボンもシャツもいらないと断ったんです。それには今まで2人いた補欠を1人に絞りました」

と、場所柄、来場者の大幅な減少で苦しむ倶楽部側にこんな自粛策を示して本大会に臨んだ。

このような厳縮予算で倶楽部対抗を切り抜けてきたチームは快挙にいとまがない、例えば前にも述べたようにシャツは2枚のところ1枚に減らし、さらにズボンを辞退するとか、あるいはボール1ダースのところを3コにするといったように、細かい話だが、全面的に倶楽部側に協力する態度を見せている。

「いいことじゃないですか。倶楽部対抗は年々盛んになり、各倶楽部とも最も大きな年中行事として位置づけられています。これまでには必要以上にお金をかけるムキもなかったわけではないですが、ことしあたりは決勝の応援風景にしても地味で、大会の雰囲気も非常によかつたと思っています。これからも地味ながら内容的には充実した大会を目指したいと思っております」

こう語るのは前出の新井競技委員長である。

ご存じのように伝統ある関東オープン選手権は、平成11年度の大会（長野カントリークラブ）をもってその幕を閉じることになったが、競技の性格は違っているとはいえ、関東倶楽部対抗競技がその関東オープンにとって代わって魅力ある大会に成長させていくこうという話もある。それだけに地味に、そして厳格に内容で勝負する大会に流れを変えつつあることは、将来に大きな希望を抱かせ

るものといってよい。

「すでに来年は大利根カントリークラブさんに決勝会場をお願いしてありますが、再来年は戸塚カントリー倶楽部にお願いして、すでに承認を頂いております。倶楽部対抗競技がさらに盛んになり、充実したものになれば、みんな喜んで決勝会場を提供してくれるようになるはずです」

新井競技委員長は最後にこうコメントする。関東倶楽部対抗が名実ともに関東を代表するイベントになれば、会場を借りるについても大きな理解を得られるはずだというのである。そのためにもこれを機会に華美な風潮への流れを止め、堅実な大会に路線をぐっと引締めていく必要がありそうである。

### ● 大健闘した決勝初出場倶楽部

今度の関東倶楽部対抗に初めて決勝進出したのはロイヤルカントリークラブ（栃木第1）と南長野ゴルフ倶楽部（長野）の2チームである。初めて関東大会に駒を進めたチームは、そのほとんどが倶楽部対抗独特の雰囲気に心理的なコントロールが崩れ、なかなかよい成績を残せないものだが、今回2チームはよく健闘した。

中でもロイヤルカントリークラブでは、激戦の予選区（栃木第1）で3位の成績で決勝に進出、挑戦10回目にしての快挙だったが、この本大会では実力を十分に發揮、13位という立派な成績を残している。



表彰式会場の大食堂も立錐の余地なし

同クラブの小野塚久信支配人は、

「緊張感の中に楽しみを……というテーマで44位中、真ん中ごろを目標に戦ってきましたが、14位とは思ってもみない成績で選手、関係者ともに喜んでおります」

と、初出場による無欲の戦いが上位につながったと語る。

そして、これまた関東大会に初めて進出した南長野ゴルフ倶楽部は、予選22チーム中、2位で決勝へ進んできた。一人の平均スコアが80が目標だった。

決勝大会では44チーム中、35位という成績で、初出場、1年のプレー日数が8カ月というハンディを考えれば、まずはまずの成績といつてよさそうだ。

「選手の結束が固く、苦節10年を乗り越えての本大会出場だが、これを機会にさらにチーム・ワークと選手一人一人の技術アップを目指して来年も頑張りたい」

と、同チームの小出利雄キャプテンは、この35位をテコに来年の活躍を約束する。

このように新顔の2チームは、長い苦難を経て本大会を目指し、それを成し遂げ、結果的にチームの結束と大いなる自信をもって来年に夢をつなげて帰ったのだが、ことしは地区予選になんと14もの新しい倶楽部が参加してきたのだ。秋山（山梨）、都留（同）、グリーンパーク（群馬）、高崎KG（同）、御荷鉢（同）、サンレイク（栃木第1）、東ノ宮（同）、東松苑（栃木第2）、ザ・ウイングス（茨城第1）、埼玉国際（埼玉）、埼玉（同）、秩父国際（同）、飯能グリーン（同）、源氏山（千葉第1）などが新し



く参加したチームである。

景気の上では、まだお世辞にも上向きとはいえないこのご時世に、なぜ、いま倶楽部対抗に新たに14チームも出場してきたのか。

この点について埼玉国際ゴルフ倶楽部の飯塚一彦支配人はつぎのように説明する。

「やはり会員の強い希望があったからです。一昨年関東ゴルフ連盟に加入させて頂きましたが、せっかくKGAの一員になったのだから倶楽部対抗に出場しない手はない——ということから初参加に踏み切ったんです。この初めての出場に会員間でも大変盛り上がり、来年はぜひ関東大会を目指そうということになっています」

と倶楽部対抗競技の仲間にはいったことで会員同士、とくにAクラスのプレーヤーの競技にはいっそ熱がはいってきたと伝えている。

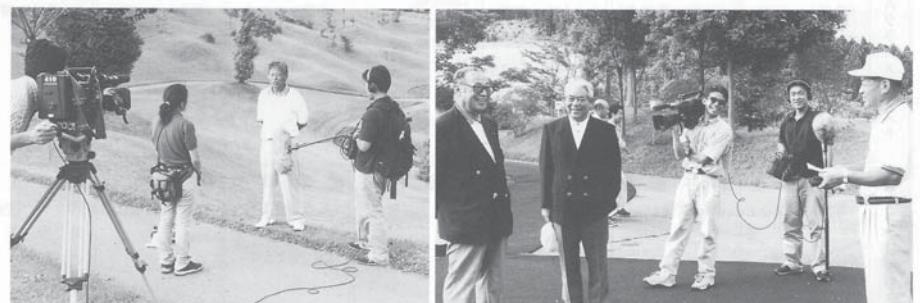
さらに千葉第1で初参加を果たした源氏山ゴルフ

出場倶楽部数が300をこえたことを記念して決勝20回以上出場倶楽部を特別表彰 右より千葉カントリークラブ(28回・福田正資キャプテン)大利根カントリークラブ(27回・生田憲一キャプテン)武蔵カントリークラブ(24回・多々良義成キャプテン)相模原ゴルフクラブ(24回・波間秀夫キャプテン)嵐山カントリークラブ(20回・齊藤昌俊キャプテン)

クラブの場合も、埼玉国際ゴルフ倶楽部のケースと同じだ。

「メンバーの強い意志できましたんです。シングル・ハンディのプレーヤーが集まって勉強会をやっていたのですが、その中にかつて他倶楽部から倶楽部対抗にでたことがある人がいたんです。そんな人たちから『出よう』という声が挙がり、塚本清士郎理事長からも『積極的に進めなさい』という指示があって、ことし初めて出ることにしたんです」

と、やはり会員の強い希望が倶楽部を動かす形になった。このほかの倶楽部も、初参加のきっかけは似たり寄ったりで、いずれにしても会員の強い要望があったのは事実。そしてこれらの初参加の各チームは、倶楽部対抗競技のもつ独得の雰囲気に刺激され「来年も」と大きな期待に胸を躍らせながら会場のサン・ヒルズを後にしたのである。



初のTV放映（7月10日Jupiterゴルフネットワーク）のための中継録画 優勝候補新千葉カントリー倶楽部の皆さんが取材を受けた





## ゴルフ規則・競技運営と JGAハンディキャップ研修会

—関東オープン、国体予選で盛り上る長野県で開催—  
文・塩田 正 (KGA広報委員)



第50回関東オープンゴルフ選手権（9月2日～5日＝長野カントリークラブ）を控えた長野県では、関東ゴルフ連盟、長野県ゴルフ協会、長野県ゴルフ場連盟支配人会の共催で「ゴルフ規則と競技運営とJGAハンディキャップ研修会」を7月1日諒訪ゴルフ俱楽部グリーン・ホールで開催した。長野県ではとくに関東オープンに対する関心が高く、さらに今年から正式に参加するくまもと未来国体への選手選考等もあって、会場には長野県ゴルフ協会理事、各俱楽部の競技、HDCP委員会代表者、俱楽部支配人および競技・HDCP関係者など、138名が集まり、田村圭司氏（KGA競技副委員長、競技・規則研修委員会委員長）のルール解説、G-sys（ハンディキャップ査定専用パソコン）のデモンストレーションの説明など、熱心に耳を傾けた。

研修会はまず赤羽功・関東ゴルフ連盟常務理事の「関東オープン、くまもと未来国体予選などを控え、ここでもう一度ルール、ハンディキャップなどを再確認しておきたい」という挨拶に始まり、午後1時すぎ田村圭司氏のルール解説にはいった。

田村氏はまずルールの説明の前に「ゴルフはご存じのように審判がない競技で、自分の行為が規則に照らして間違っていれば、罰を付加して、それを自分のスコアとしなければならない。だから自分がルールに精通していることを求められるのです」と前置きしてルールの重要な部分を抜粋しながら解説にはいった。

さすがに田村氏の説明は明解で、参加者たちも「なるほど」と何回もうなずきながら熱心にメモをとっていたのが印象的だった。

参加者のあるゴルフ俱楽部の競技委員は「質問したいことがたくさんあるので、年1回にとどまらずに4回くらいに分けてやってもらいたい。そうすればもっとルールに対する関心が高まってくるはずです」と複数回の開催を求めていた。

またこの研修会の実現のために地道な努力を重ねてきた平林治氏（長野県ゴルフ場連盟支配人会会長・諒訪湖カントリークラブ支配人）は、「9月初旬の関東オープン、およびくまもと未来国体

予選などを控えているので、それだけルールやハンディキャップに対する関心が高まっています。この研修会にこれだけ多くの人が集まったのもそのためです」

と、やはり長野県ゴルフ界が、関東オープンやくまもと未来国体に高い関心が集まっているからこそ、こうした多くの熱心な参加者が集まつたのだと説明する。

そして田村氏はルール解説の最後に、

「みなさんもゴルフ・ルールにとりつくきっかけを作っていただきたい。ルールに精通していれば自信も湧いてくるし、より楽しくプレーすることができます」

と締めくくり、参加者から盛大な拍手を浴び、3時間におよぶルール解説にピリオドをうつた。

なおその後、G-sys（HDCP査定専用パソコン）での実際の場面を説明したデモンストレーションがあり、午後5時に研修会の幕を閉じた。

### ゴルフ規則・競技運営と JGAハンディキャップ研修会の御案内

**講習** 業界環境は国際化でございますが、皆様の御理解により県内開催団体がそれぞれの立場でご尽力いただきますと厚く御礼申し上げます。  
さて、上記につき、関東ゴルフ連盟の協力により実施致します。ご多用中誠に恐縮になりますが、開催地のご出席にてお力添えをいただき、関東オープン開催を契機により実施した競技運営が各機関にて実施されるべく宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

#### 記

主 催 関東ゴルフ連盟・長野県ゴルフ協会・長野県ゴルフ場連盟  
日 時 平成11年7月1日（木）午後1時～5時  
場 所 諒訪ゴルフ俱楽部「グリーンホール」  
会 費 2,000円（昼食代を含む）

参加をお願いする方  
① 長野県ゴルフ協会理事  
② クラブ競技委員会代表者  
③ クラブHDCP委員会代表者  
④ クラブ支配人・クラブ競技担当者・クラブHDCP担当者  
ご都合で何名でも結構です。

以上

▶プレーゴ希望の方は午前中可能ですので直接諒訪ゴルフ俱楽部にお申し下さい。（参加者メンバーリスト）  
▶講 師 田村圭司（KGA競技副委員長・競技・規則研修委員会委員長）  
酒造満之助（HDCP査定専用パソコン）  
▶G-sys（ハンディキャップ査定専用パソコン）のデモンストレーションも行います。

平成11年6月5日

長野県ゴルフ協会  
会 長 小坂 健介  
関東ゴルフ連盟  
常務理事 赤羽 功  
長野県ゴルフ連盟支配人会  
会 長 平林 治

## 分科委員会

### 平成11年度 第2回コース・レート委員会議事録

日 時 平成11年7月13日（火）

正午

場 所 KGA会議室

出席者 大原委員長

岡田・前川両副委員長  
大久保、岡田（史）、中野、  
平本、松岡各委員  
渡邊顧問

#### —討議及び決議事項—

##### 1. 査定数値決定について

アカデミアヒルズカントリークラブ  
以下7俱楽部のコース・レーティング  
を以下のように決定した。

アカデミアヒルズカントリークラブ  
「バック・ティ」「ペントグリーン」  
72. 3

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
70. 2

「フロント・ティ」「ペントグリーン」  
68. 3

黒崎ゴルフ場  
「バック・ティ」「ペントグリーン」  
70. 3

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
69. 7

「フロント・ティ」「ペントグリーン」  
69. 0

「バック・ティ」「コーライグリーン」  
70. 1

「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」  
69. 5

「フロント・ティ」「コーライグリーン」  
68. 8

本厚木カントリークラブ（机上再査定）  
「バック・ティ」「ペントグリーン」  
72. 0

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
70. 0

「バック・ティ」「コーライグリーン」  
70. 7

「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」  
69. 4

桜ヶ丘カントリークラブ（机上再査定）  
「バック・ティ」「Aグリーン」  
71. 6

「レギュラー・ティ」「Aグリーン」  
67. 2

「バック・ティ」「ペントグリーン」  
71. 6

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
69. 0

「フロント・ティ」「ペントグリーン」  
67. 9

「バック・ティ」「コーライグリーン」  
70. 8

「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」  
68. 4

「フロント・ティ」「コーライグリーン」  
67. 4

桃園・愛鷹コース  
「バック・ティ」「ペントグリーン」  
72. 1

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
69. 5

「フロント・ティ」「ペントグリーン」  
68. 4

「バック・ティ」「コーライグリーン」  
71. 0

「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」  
68. 6

「フロント・ティ」「コーライグリーン」  
67. 7

箱根カントリー俱楽部（机上再査定）  
「バック・ティ」「ペントグリーン」  
73. 0

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」  
70. 0

##### 2. 査定スケジュールについて

笠間東洋ゴルフ俱楽部以下5俱楽部  
査定日について、以下のように決定した。

● 笠間東洋ゴルフ俱楽部  
8月23日（月）

● 長野京急カントリークラブ  
9月1日（水）

● 藤代ゴルフ俱楽部  
9月20日（月）

● 猿島カントリー俱楽部  
10月4日（月）

● 昭和の森ゴルフコース  
10月19日（火）

##### 3. JGAハンディキャップ委員会報告について

大原委員長、渡邊顧問より、7月12日に開催された、JGAハンディキャップ委員会の資料をもとに詳細な説明がなされ、各委員これを確認した。

## 月例競技成績表

〔平成11年度4月月例〕4月12日(月) 富里ゴルフ俱楽部

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	原 繁雄	横 浜	36	35	71
2	渡辺 幹根	宇都宮国際	36	36	72
2	小川 透	岡部チサン	38	34	72
2	木村 哲也	千 葉	35	37	72
2	治谷 晴夫	並田スプリングス	35	37	72
2	井端 和生	大熱海国際	35	37	72
2	徳永 雅洋	ザ・レイクス	34	38	72

コースレート72.5

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	大木 美佳	芝玉スプリングス	36	38	74
2	栗原美佐枝	扶 桑	38	37	75
3	関根奈穂美	セントラル	38	39	77
3	南雲 真理	岡部チサン	39	38	77
3	渡辺 恵子	高 根	40	37	77

コースレート70.6

〔平成11年度6月月例〕6月14日(月) 嶽山カントリークラブ

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	川上 春弘	習 志 野	34	35	69
2	徳永 雅洋	ザ・レイクス	34	36	70
2	加藤 一彦	千 葉	35	35	70
4	松本 寛美	富 土 宮	35	36	71
5	室伏 健二	東 名	37	35	72

コースレート72.5

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	岡橋 早里	オークヒルズ	39	36	75
2	川端 恵子	藤 岡	40	36	76
2	南雲 真理	岡部チサン	36	40	76

コースレート70.5

〔平成11年度7月月例〕7月6日(火) 船橋カントリークラブ

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	宮 駿夫	習 志 野	36	34	70
2	徳永 雅洋	ザ・レイクス	36	36	72
3	吹野 繁一	都 實	38	36	74
3	齋藤 和典	富士・笠間	37	37	74
5	亀井 隆	唐 沢	36	39	75
5	戸祭 康生	東 ノ 宮	35	40	75
5	沢田 信弘	東京五日市	39	36	75
5	室伏 健二	東 名	38	37	75

コースレート72.2

## お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟俱楽部便覧」の変更事項は次記のとおりです。訂正加筆をお願い申し上げます。

### 理事長

- 俱楽部代表者
- 支配人
- 伊香保カントリークラブ  
(新)荒井 修二 (旧)井田 哲生
- 下秋間カントリークラブ  
(新)高階 滉尚 (旧)高階 源治
- 妙義スプリングスカントリー俱楽部  
(新)吉崎 漢雄 (旧)渡辺 武信
- 上総富士ゴルフクラブ  
(新)鷺崎 昭彦 (旧)鷺崎 章
- 妙義スプリングスカントリー俱楽部  
(新)吉崎 漢雄 (旧)渡辺 武信
- 芳賀カントリークラブ  
(新)中澤 靖 (旧)佐々木喜朗
- 上総富士ゴルフクラブ  
(新)鷺崎 昭彦 (旧)鷺崎 章
- 袖ヶ浦カントリークラブ  
(新)安藤 孝之 (旧)青木 幸治
- 御殿場ゴルフ俱楽部  
(新)小池 隆 (旧)安 欣治
- 大熱海国際ゴルフクラブ  
(新)西垣 卓 (旧)加藤 隆一
- 八王子カントリークラブ  
(新)北岡 徹 (旧)近藤 基三
- 大熱海国際  
(新)西垣 覚 (旧)加藤 隆一
- 富士小山ゴルフクラブ  
(新)北中 誠 (旧)浪上 隆司
- 富士御殿場ゴルフ俱楽部  
(新)綾井 芳一 (旧)池上 誠
- 富士箱根カントリークラブ  
(新)選任中 (旧)神谷 尚男

- 伊香保カントリークラブ  
(新)高橋 元宏 (旧)小関 博
- 伊香保國際カントリークラブ  
(新)島島 正己 (旧)菊池 廉之
- 妙義スプリングスカントリー俱楽部  
(新)阿部 勇二 (旧)大澤 重芳
- 日光カントリー俱楽部  
(新)瀬潤 英男 (旧)瀬葵 哲男
- 大洗ゴルフ俱楽部  
(新)渡辺 昌彦 (旧)小森 晃
- 金砂郷カントリークラブ  
(新)宇津木幸 (旧)山崎 善満
- 鴻巣カントリークラブ  
(新)常松日出夫 (旧)田中 徳彌
- 伊勢原カントリークラブ  
(新)金井和彦 (旧)増田 貞博
- 御殿場ゴルフ俱楽部  
(新)吉川 達也 (旧)常松日出夫
- コスマクラシッククラブ  
(新)鈴木達也 (旧)木村 猛
- 万木城カントリークラブ  
(新)毛利 敏元 (旧)大槻 是明
- 桜ヶ丘カントリークラブ  
(新)山本 渡 (旧)上原 勇治
- 伊勢原カントリークラブ  
(新)黄金井和香 (旧)増田 貞彦
- 芙蓉カントリー俱楽部  
(新)佐々木陽一郎 (旧)平川 基春
- 富士小山ゴルフクラブ  
(新)八木 明 (旧)勝又 敏樹
- 富士御殿場ゴルフ俱楽部  
(新)福島 篤治 (旧)今橋 昇

平成11年8月1日発行 KGA ニュース No.67  
発行所／関東ゴルフ連盟 東京都千代田区麹町2-12 CTS麹町ビル8F TEL.(03) 5275-0391  
発行人／福田 彰 編集／広報委員会